武蔵野大学

環境学部環境学科環境学専攻

環境プロジェクト

活動報告書

2010年度版

CONTENTS

環プロとは…… 2
プロジェクト紹介…… 3-8
特集プロジェクト…… 9-20
○青丹菜
○小学校環境教育
○ECO REPORT WAY 21
○Candle Night
○新キャンパス
○One Planet Café Musashino
担当教員インタビュー…… 21-22
第三者評価…… 23
卒業生インタビュー…… 24
連携先企業…… 25
あとがき…… 26

環プロのはじまり

多くの人はある未知の事柄について知りたいと思っていた時、誰かにその解答を教えてもらいます。大学の授業では、このような未知の専門知識を教えてくれます。ところが教えてもらうと、そのこと自体は理解できても、その瞬間に疑問を抱いていた「知的な好奇心」は消えてしまいがちです。

このジレンマを改善する方法はないだろうかと、他大学にはない授業「環境プロジェクト」(以下、環プロ)が始まりました。このアイデアのもとになったのは、ある私立大学が全学生を対象に行っていた「学生チャレンジ制度」です。この制度では学生はやってみたい企画を応募します。大学はテーマの中から優れたものを選び、予算を付けるというものです。テーマは様々ですが、挑戦した学生の達成感は大きいといわれました。

環境学部の学生は何か環境活動をやってみたいと活動的です。きっとこのような授業形態でもチャレンジして、成果を上げてくれるに違いない、と環プロを行うことにしました。

(「活動報告書 2009」矢内教授のコメントを一部修正)

環プロとは

「環境プロジェクト」という授業科目を中心に行われる体験型の学習です。ですが、取り組んでいる学生たちは、さまざまなアクティビティ(活動)を楽しんでいるようです。それは自分のテーマ以外の仲間からボランティアとしての応援要請があると、多くの学生が動くことから分かります。

この環境プロジェクト・テーマへの取り組みですが、新入生が授業に慣れてきた7月初め頃、そのときに実働しているプロジェクトの紹介があります。そして、2年から参加します。中には2年からの取り組みが待ちきれず、入学後すぐに参加する学生もいます。

プロジェクト・テーマは、「街づくり」「環境教育を通して社会貢献する」、「環境ビジネスを生み出す」、「エコ商品の販売企画」など多岐にわたりますが、独自のものを立ち上げることもできます。必要に応じて学外(産・官・民)と連携します。学生はこれらのテーマの中で2ヶ月から3ヶ月くらいの企画を考えて、実行しています。その過程をPDCAサイクル(Plan、Do、Check、Act)つまり、企画し、実行し、結果を吟味してさらにより良い企画を出すというように体験学習します。

授業外の活動が多いのですが、活動・運営はあくまで学生の自主性にまかされています。このような授業はおそらく他の大学にはないでしょう。

(環境プロジェクトHPを一部修正)

青丹菜

◎田嶋正大　奥冨　綾
喜多悠介　原健　斗
吉野大器　西舘　恵
青木大地　大木奈緒美

青丹菜とは、大学食堂の野菜くずを利用した循環作りと、収穫した野菜や野菜作りで得た経験を「食育」に活用していくことが目的のプロジェクトです。
大学食堂に野菜くずを提供してもらい、コンポストで堆肥化させます。その堆肥を畑に使用して野菜を育て、大学食堂でその野菜を使ってもらい、また野菜くずを提供してもらう、という野菜のサイクルを創っています。
最終的には、育てた野菜を販売することを目標としています。
来年度からは、江戸野菜にも着手する予定です。

ASSY

私たちProject:ASSYは震災教育を軸に置いたプロジェクトです。いつ、どこで、どんなものが起こるかわからない“地震”その現状や知識などを伝えるべく小型地震体験機を用いて地震の知識や地震に対する備えの必要性を身近に感じてもらうことを目標とし、メインイベントとして墨田区のコミュニティセンターにて小型地震体験機をメインとしたブースを設置し、訪れた多くの方々へイベントを通じて“突然くる地震の恐ろしさ”を実感していただきました。

◎金子一平　青島直哉
星　直人　仲　真司

Yes My Bottle

◎高見沢結真　小山智子
鈴木智子　宮川昂大
吉田真由美　小口貴史

現在の飲料品における容器とそれによる廃棄物の問題を解決するために、販売方法などを見直すことを軸として活動するプロジェクトです。主に、学内における飲料の販売について取り組んでおり、学内の自販機調査や他大学で使用されている環境に配慮した自動販売機の視察・調査などの活動をしています。現在は、新キャンパスプロジェクトと共にエコキャンパス化を目指し、マイカップ式自動販売機やカートカン使用の自動販売機などの環境に配慮した自動販売機の学内への導入を考え活動しています。

エコキッズ

◎齋藤絢　遠藤眞司
石本勇一　秋山早由莉

企業の方と提携し、子供たちに環境イベントを行っています。プロジェクト目標として、エコに関する体験を通して、子供たちが地域を知り、好きになることを目指しています。「廃食油」をテーマに、ものづくりが盛んである墨田区でイベントを行いました。活動内容は株式会社山武さんと提携し、小学校低学年約30名を対象とした環境イベントの企画から実施です。
企画段階では、「廃食油」をどのように墨田区と結びつけていくか、小学生に飽きずに楽しんでもらう、というものを考えながら学習内容を固めていきました。ある程度内容が決まったら、小学生に体験させる内容について、危険がないか自分たちで実験や工夫を行い、イベント時に怪我人が出ないよう徹底しました。
実施では8月から11月の間、月1回ずつイベントを行いました。ワークシートを作成し、書き込みながらの学習に加え、石鹸作りやキャンドル作り、エンジンの可動を行い、廃油の生まれ変わる瞬間を実際に見て学んだことで、子供たちも楽しんでいました。

エコプロダクツ

主な活動目的は環境プロジェクトの外部への説明と環境プロジェクトとの提携企業を見つけることです。
活動内容は東京ビックサイトで行われるエコプロダクツに環境プロジェクトを説明するブースを出展することです。出展の仕方は環プロ全体から4～5つプロジェクトを選んでパネルや活動に使われた実物、パソコンなどを使って出展します。
環境プロジェクトを学外に発信する大切な活動です。

◎原　健斗　遠藤眞司
山本大幹　坂井由里子
佐藤　静　伊藤あゆみ　星　直人

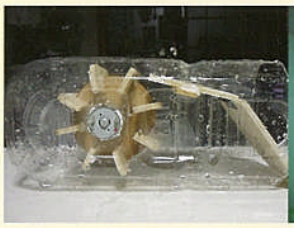
ECO REPORT WAY 21

◎小野弘祐　石井明日香
笹川貴史　宇内友里恵
斉藤俊介　久保川みのり
中内芹那　藤田靖雅　宮田友理

企業の発行している環境CSR報告書を、ECO REPORT WAY 21学生メンバーが作成した「リクルートのための21の指標」によって評価・分析しています。その結果は学生が企業に直接報告に行き、お互いに意見を交換する場を設けています。こういった活動を通して、次世代の社会人である学生を育てることにつながります。さらに、報告書に若い視点を取り入れることできるので、より魅力的な報告書を作成することにつながり、学生はより身近に企業を感じることで、将来の自分をより具体的に考えられるようになります。

海洋発電

◎小林侑磨　田島靖晃
根本和映　直野和成
木下雄貴



日本が島国であるという利点を最大限に生かした、発電システムを知ってもらうために立ち上げたプロジェクト。
海洋エネルギー（波力・潮力・浸透圧）を利用した発電システムの製作。現在の日本の発電量の80％を占める、火力・原子力発電から海洋発電に少しずつでも移行を図る。火力発電により発生するCO_2を削減し、地球環境を保護する。また原子力発電の危険性を排除する。
目標は、波力発電機の完成、波力発電機の実用化までの改良、浸透圧発電機の完成、ライブ配信サイトを利用して、海洋発電の存在を知ってもらう（実験風景の配信等）ことです。

環境プロジェクトコーディネート

◎坂井由里子　林口友香里
石井明日香　猿谷あかね
佐藤翔平

各プロジェクトが情報共有や情報発信、報告会参加などを円滑に行えるよう企画・運営を行い、環境プロジェクト全体が有機的に動けることを目的としています。活動内容は、報告会の企画運営（司会進行、タイムキーパー等）、HPの管理、リアクションペーパーの集計などを行っています。このプロジェクトは、環プロ全体を体系的に見ることができ、プロジェクトの個性を把握することが可能です。そして「環プロには何が必要か」「どうしたら活動しやすいか」などを常に考えて行動する、やりがいのあるプロジェクトです。

Candle Night

◎猿谷あかね　坂井由里子
林口友香里　佐藤翔平
高橋伶奈　小坂悠太
小出恵　原まなみ　小山諒太
青木輝　佐藤勇輝　青島直哉

時間の流れがゆっくりと感じられるキャンドルを囲み、友人や知人とスローな時間を共有することで、友達・家族・自分の将来・自分自身が環境の為に何ができるかなど、何かを考えるきっかけの場を提供したいと思っています。
そこは電気にともされた日常的な空間ではなく、普段と違ったコミュニケーションを体感できる時間となるはずです。年に数回キャンドルナイトを実施しています。

再利用

◎広利時雅
柳沢周平
石井良平

わたしたち再利用プロジェクトはRe USE Re CYCLEに続く Re MAKE を実行し、わたしたちの“3R”を再現する　という活動を主にしています。
主に、学内の生徒から不要品を集めたりして、着られなくなった服をリメイクしたり、傘骨を利用しCDラックを作ったり、先輩の教科書を後輩へ渡すように呼びかけたり……活動は様々です。“ごみ”を“ごみ”として捉えないように活動していくことにより、物を大事にしようと心がけるようになることがわたしたちの目標です。

小学生への環境教育

◎佐藤大介　山本大幹　佐原真央
西春香　石原由貴　藤木光次郎
石井良平　柳沢周平　中村 悠紀

地域にある小学校や児童館で環境に少しでも興味・関心を持ってもらう為に活動しています。今年度は田無小の６年生を対象に今まで学んできた事を生かしてCMという手段を使って学ぶ立場から、発信するという学習を通して環境に対する考えを深めるという活動を行いました。児童館の方は今年度から始めた活動で燃料電池車や圧電素子というクリーン電力をテーマに「体験・驚き・発見・楽しく」などを目標に活動してきました。夏休みや春休みなどに活動があったりと大変なプロジェクトではありますが、一から自分たちで「何をしたいか」を考え提案し話し合いを行って活動を行えた時には大きな充実感や自信も得られると思います。

新キャンパスプロジェクト

◎宮川昂大　小口貴史　小山智子
鈴木智子　吉田真由美
丹治菜摘　木村芙紗子

有明新キャンパスを100% ECO なキャンパスに!!　そんな想いを胸に始まったのがこの新キャンパスプロジェクトです。そのために何をするかを自分たちで考え、メンバーで会議を行い、提案する。それがこのプロジェクトの活動です。
新キャンパスができるこの時期ならではのプロジェクトで、結果や達成感はきっと来年まで感じることはできないと思いますが、なにかを作り上げるチャンスは今しかありません。こんなキャンパスにしたい、そんな想いを持っている方はぜひ一声かけていただきたいと思います。

世代間交流学習

◎林口友香里　　堀内朱馬
　島袋　真　　坂井由里子

学生と大人では環境意識に違いがあるという考えから、大人に向けて環境教育コンテンツを発信していくプロジェクトです。目的は世代間の考え方の違いを知り、環境についての勉強会を行い共に身近な環境問題の解決を目指すことです。また、ワークショップでのファシリテーション能力を高める、議論に負けない能力を身につける、環境問題一般についての知識を持つ、世代を超えて何らかの成果を挙げることを目標に活動しています。活動内容としてはメンバー全員で勉強会を行い、エコ検定に挑戦しました。それから、ワークショップでは三鷹市市民大学総合コース『環境時代のまちづくり』という三鷹市民大学講座に参加し、9月に「人と自転車が中心のまちづくり」というテーマで行いました。2月にも「地域社会を環境未来派にしよう」というテーマで行う予定です。

チャレンジ ECOショップ

◎堤　麻枝
　斉藤優里枝

私たちは、期間限定で新しいビジネス・新たな活動をしたいという方々に商店街の空き店舗・空きスペースを貸し出しするというチャレンジショップの発想に、“エコ”をプラスして、『チャレンジECOショップ』として活動しています。
商店街・環境活動をしている方々と協力し、地域の活性化を目指しています。また、エコの知識を身近なところから発信する事で、環境意識が高い地域にします。活動内容は、環境パネルの展示・クイズラリーなど、イベントに合わせた催しを行っています。

ビオトープ

◎山口真一　　小山智子
　田中健創　　井上皓介
　平松秀紳　　村松　尚
　奥原明美　　南川麻綾
　宇野庄太郎　　大森早希子

人と自然の深い触れ合いや、地域との交流をビオトープを使って実践していくことを大きな目標として活動しています。その目標を達成する為、有明新キャンパスに建設されるビオトープを有効活用しています。新キャンパスが完成するまでの期間は、三鷹キャンパス周辺で生物図鑑作成や水質調査を行い、自然環境や生態系についての理解に努めています。三鷹キャンパスで行った活動を有明キャンパスでも続け、その結果を比較することで生態系の違いを理解し、それらの調査で得た知識や経験を有明で活用していくことを現在の目標として活動しています。

寄せ鍋

◎遠藤眞司　原　健斗
星　直人　大木奈緒美
西館　恵　奥富　綾

寄せ鍋はイベント参加型のプロジェクトです。エコなことを通して地域の方や子供たちの環境意識を向上することを目的とし、竹を使ったMy箸作りや傘布を使ったエコバック作りのブースをイベントに出展してきました。過去の活動としては一昨年度にエコプラザ西東京オープニング期間でＭｙ箸のブースを、昨年度にSUMMER SONICでエコバックのブースをそれぞれ出展し、今年度は狭山市市民健康文化センター(サンパーク奥富)で初の講座形式でＭｙ箸作りのイベントを行いました。今後もイベントに参加していき、地域の方の環境意識向上に貢献していきたいです。

W.C

◎小町竜太
岩佐裕太

僕らW.Cは人間環境という今までの環プロには、無いような視点で始めたプロジェクトです。主な活動内容としては、学内に仮設テントという学生が休憩でき安らげる空間を作ることを目的としました。人数が少ない中で、いまだに計画段階ではありますが、実験的にでも成功できればと思います。
今までの活動内容としては、１号館アーケードに音楽を流すことでの印象について学内生、教員、事務職員にアンケートを取らせていただきました。

OnePlanetCafé Musashino

◎千葉めぐみ　布能友香
渡辺南風　中井麻由
道家悠介　下城貴規
川津貴大

ザンビア共和国在住の７人の女性達と現地の国立公園でガイドを勤めるビリー・エコンマ氏、そしてエクベリご夫妻が、“大人が学ぶ・集う・楽しむ”を目的にスタートしたOne Planet Café。これに賛同し、One Planet Café Musashinoは活動を開始しました。
「知識のフェアトレード」を目標に、アフリカについての啓発活動、イベントへの参加、ザンビア共和国現地の方とのＥメールを通じた交友などを行っています。
昨年度からは、新しく密蜂プロジェクトも始まりました。その目的、及び目標は、養蜂技術の共有、養蜂を通してアフリカとつながること、複雑な自然から、温暖化を読み取ることです。

青丹菜

青丹菜とは、大学の食堂の野菜くずを利用した循環作りと、収穫した野菜や野菜づくりで得た経験を「食育」に活用していくことを目的にしたプロジェクトです。大学の食堂に野菜くずを提供してもらい、コンポストで堆肥化させます。
その堆肥を畑に使用して野菜を育て、大学食堂で野菜を使ってもらい、また野菜くずを提供してもらうというサイクルを創っています。最終的には野菜を販売することを目標としています。
来年度からは、江戸野菜にも着手する予定です。

メンバー

田嶋正人	喜多悠介	青木大地
原　健斗	吉野大器	奥富　綾
西舘　恵	大木奈緒美	

農業に関心をもってもらいたい

リーダー　吉野大器さん

～インタビュー～

1、そのプロジェクトを始めた（入った）理由

農業に興味があり、環プロの中で一番関心があったからです。

2、プロジェクトの活動目標

学校給食からでる野菜くずを肥料にし、その肥料で野菜づくりを行い、学食で使ってもらうという農業サイクルをもっとちゃんとしたものにしていきたいです。
また、育てる野菜の数を増やしていきたいです。

3、プロジェクトの活動内容

学食からでる野菜くずを堆肥（たいひ）化し、その肥料を利用した野菜作り。
また、作った野菜を幼稚園のすいとん大会で利用してもらったりもしている。
それと同時に青丹菜の活動を紹介し、青丹菜の他の人にもこの活動を知ってもらい農業に関心を持ってもらう。

4、プロジェクトの今後の展開

もっとたくさんの野菜くずを堆肥化するなどの作業をして、循環型農業を理想的なものにする。
青丹菜の活動がよりすばらしいものになるような、より環境によい（環境に優しい）農業に関連した取り組みをしていきたい。

5、そのプロジェクトを通して得たこと（学んだこと）

作っている、またはつくりたい野菜などはありますか？
トマト・ピーマン・ナスを作り、後期には大根を作りました。まだ考えていませんが、トウモロコシを作れたらなぁと思っています。

6、最後に一言

やりたいことがある人は参加してみてください。
１年生の意見も取り入れたいと思っています。

小学生への環境教育

地域にある小学校や児童館で環境に少しでも興味・関心を持ってもらうために活動しています。
今年度は、田無小の６年生を対象に、今まで学んできたことを生かしてCMという手段を使って、学ぶ立場から発信する立場で学習してもらい、環境に対する考えを深めるという活動を行いました。
児童館での活動は今年度から始めたもので、燃料電池車や圧電素子というクリーン電力をテーマに、「体験・驚き・発見・楽しく」などを目標に活動してきました。夏休みや春休みなどに活動があったりと、大変なプロジェクトではありますが、いちから自分たちで「何をしたいのか」を考え提案し、話し合いを行って活動を行えた時には、大きな充実感や自信を得られます。

メンバー

佐藤大介	山本大幹	石井良平
佐原真央	西春　香	柳沢周平
石原由貴	藤木光次郎	中村悠紀

大学生だから出来る教育

リーダー　佐藤大介さん

～インタビュー～

1、そのプロジェクトを始めた（入った）理由

ぼくは教職もとってるんだけど、１年生の６月くらいのときからこのプロジェクトのボランティアに行ってたんだ。環プロとは別にね。それで環プロの授業を履修できるようになって、その流れで自然と…（笑）

2、プロジェクトの活動目標

小学生に、実験とか環境CMを作ったり大学生だからできること、小学生が普段出来ないことを通して、環境に興味を持ってくれたらいいかなって。

3、プロジェクトの活動内容

小学校に行って、事前学習とかして、大学で本番を迎えるみたいな形で…。
今年新しく活動をはじめた児童館なんだけど、燃料電池の実験とか圧電素子とかをおもちゃみたいな感覚で遊んでもらってますね。

4、プロジェクトでの経験

小学校の先生から会議で結構厳しく言われたりつっこまれたりするんだけど、児童館からは"自由にやって？"と言われてます。指導案とか書いたり、会議を重ねたりするから、そういう力はつくかなぁって。
環境学部に所属してる人間として、補助とかでなく自らが"環境教育"をできたってことは大きい経験だなっておもいます。

6、最後に一言

やる気があれば、楽しいプロジェクトになると思うし、他のボランティアでは出来ないような"環プロだからできること"っていうのがこのプロジェクトにはあると思います！

メンバー

久保川みのり	宇内友里	宮田友理
石井明日香	小野弘祐	藤田靖雅
笹川貴史	中内芹那	斉藤俊介

責任を持って行動

リーダー　小野弘祐さん

～インタビュー～

1．活動目標は？

今のところはたぶんまだ私達の活動が企業の方々に浸透していないと思うので、企業訪問の数を増やして私達の活動（エコリポートウェイ21）を知ってもらえたら。

2．今後の展開は？

とりあえずはメンバーが新2年生がいない状態なので、メンバーの確保と、もっと貪欲に活動していって、企業に訪問させて頂く機会を増やしていきたい。

3．苦労したことを教えてください。

やっぱり社会人の方々と話す機会が多いのが、最初は嫌だったんです。何を話していいのかもわからなかったし。また、自分自身のCSRを評価する上での考えが定着していなかったので最初は苦労しました。あとは実際の企業の方々と触れ合っていくので責任をもってやらなきゃいけないところがプレッシャーで大変です。

4．逆に嬉しかったことは？

回数を増やしていくことによって企業の方々と触れ合うことに抵抗がなくなってきたし、長い目で見ると、この活動自体が就活にも繋がっていくのがいいことだと思います。

5．活動の際に心がけていること

企業の方にメールを送る際の言葉遣いや時間厳守。社会人として当たり前のことを学生のうちからやっていこうってことですね。寝坊と遅刻をしないことですね！（笑″

6．最後に一言！

この活動は絶対に将来の役にたつと思うので是非1年生も入ってください！　エコリポートウェイ21の活動はさっきも言いましたが、企業の方と絡んだり、普通の　学生では得られないものが得られるし、すごく充実した活動が出来ると思うので、入れば絶対後悔はしないし、　いい学生生活が送れると思います。

ECO REPORT WAY 21

企業の発行している環境CSR報告書を、ECO REPORT WAY 21学生メンバーが作成した「リクルートのための21の指標」によって評価・分析しています。その結果は学生が企業に直接報告に行き、お互いに意見を交換する場を設けています。こういった活動を通して、次世代の社会人である学生を育てることにつながります。さらに、報告書に若い視点を取り入れることできるので、より魅力的な報告書を作成することにつながり、学生はより身近に企業を感じることで、将来の自分をより具体的に考えられるようになります。

Candle Night

忙しい毎日に振り回され、自分を見失ったことはありませんか。
そんな現代社会で当たり前に溢れる電気を消して、キャンドルの明かりだけで時間を過ごしてみてください。
私たちキャンドルナイトプロジェクトは、そんな自分を見つめ直すきっかけとなるスローな場所を提供することを目的に、活動しています。
主な活動は、毎年２回学内におけるキャンドルナイトイベントの企画、開催です。
長期休暇には学外のイベントのお手伝いやコーディネートを行うこともあります。
2010年度は８月に亀戸の香取大門通り商店街の町興しイベントにて、キャンドルナイトのコーディネート等を行いました。

メンバー

坂井由里子	猿谷あかね	小出　恵	青木　輝
林口友香里	高橋伶奈	原まなみ	佐藤勇輝
佐藤翔平	小坂悠太	小山諒太	青島直哉

自分をみつめなおす空間です。

リーダー　猿谷 あかねさん

～インタビュー～

1、そのプロジェクトを始めた（入った）理由

1年生の時、先輩のプレゼンテーションで使われていたイベントの写真や、“癒しの空間を提供する”というプロジェクトの目的に興味を惹かれ、 自分もやってみたいと思ったからです。

2、プロジェクトの活動目標

学内関係者はもちろん、地域住民の方々など、より多くの人にイベントを知ってもらえるよう、告知活動を創意工夫し積極的に行うことで来場者を増やすことが目標です。

3、プロジェクトの活動内容

キャンドルナイトというイベントを毎年2回、夏至と冬至の時期に、学内のグリーンホールで開催しています。

4、プロジェクトの今後の展開

イベントをもっと気軽に立ち寄れる”癒しの空間”にして、それをより多くの人に提供したいと思っています。例えば、大学のアーケードでたくさんの人にペットボトルキャンドルを作ってもらい、それを使って会場までの道を光で演出するなどを考えています。

5、そのプロジェクトを通して得たこと（学んだこと）

リーダーとして人の上に立つという責任感を学べたことや、イベントで配布するアンケートに「来年もまた見たい!!」とか「綺麗!!」とか書いてもらえるとすごい嬉しくて、次も頑張ろうと思えるので、そういうひとの暖かさを得られました。

6、最後に一言

キャンドルの光による癒しの空間を是非体験してほしいので、私たちのイベントに気軽に参加してみてください。

新キャンパスプロジェクト

有明新キャンパスを100%ECOなキャンパスに!!　そんな想いを胸に始まったのがこの新キャンパスプロジェクトです。そのために何をするかを自分たちで考え、メンバーで会議を行い、提案する。それがこのプロジェクトの活動です。

新キャンパスができるこの時期ならではのプロジェクトで、結果や達成感はきっと来年まで感じることはできないと思いますが、なにかを作り上げるチャンスは今しかありません。こんなキャンパスにしたい、そんな想いを持っている方はぜひ一声かけていただきたいと思います。

メンバー

宮川昂大	鈴木智子	木村芙紗子
小口貴史	吉田真由美	
小山智子	丹治奈摘	

授業では体験できないこと

リーダー　宮川昂大さん

～インタビュー～

Q. プロジェクトの活動目標はなんでしょうか？

A. 今のところは低層棟だけですが、有明の新キャンパスを100%エコなものに。

Q. 今現在行なっている活動の内容や今までやってきた活動を教えてください。

A. 今現在は有明の低層棟にカフェを設置するのでいかにエコにするか。木楽舎というソトコトの雑誌を発行している会社と一緒に提携して行っています。カフェの取り組みは比較的新しいんです。今までやったことは自販機のことが中心。そのためにリユースカップを使っている日産スタジアムにいって仕組みを聞きました。また、環境経営のプロに話を聞いて、屋上緑化や風力発電などの提案をしていただきました。実現を決まったこととしては、高層棟の屋上にデータロガーを置くことが決定しました。また、ビオトープの敷地も確保すること出来ました。

Q. 社会人の方と話すわけですが、なかなかこちらの意見は通りづらいですよね。そこで努力したことはなんでしょうか？

A. 相手に提案すること。当然相手にメリットがなければ弾かれるわけですが、1回目の提案で相手が何を必要としているか考えました。いかに相手の意図を汲めるかどうかが大事です。あとは粘り強さ、熱意ですね！

Q. このプロジェクトをやっていてよかったこと

A. 企業の方と接することが増えたので社会を知ることが出来ました。実際に企業に足を運んで会議をすることで社会人の方から刺激を受けました。

Q. 最後に一言お願いします！

A. 一番重要なことがあるんです（笑"今プロジェクトは3年生が主体なんですよ。1年生がちらほらいるんですが、活動の人数が少ないんです。もう少し人数が必要なので是非、新1年生の人にも参加してもらって新2年生の人達と一緒にプロジェクトを進めていってください！

少しでも興味があったら足を踏み入れてください。実際やってみると授業では体験出来ないことが体験出来るので就活の原動力にもなります。

One Planet Café Musashino

ザンビア共和国在住の７人の女性達と現地の国立公園でガイドを勤めるビリー・エコンマ氏、そしてエクベリご夫妻が、“大人が学ぶ・集う・楽しむ”を目的にスタートしたOne Planet Café。これに賛同し、One Planet Café Musashinoは活動を開始しました。当プロジェクトでは「知識のフェアトレード」を目標に、アフリカについての啓発活動、イベントへの参加、ザンビア共和国現地の方とのＥメールを通じた交友などを行っています。過去の活動には、渋谷PEACE祭2009、WORK・LIFE BALANCE＋ECO 2009などイベントへの参加、武蔵野大学摩耶祭にて開店したアフリカンカフェなどがあります。昨年度からは、新しくみつばちプロジェクトも始まりました。その目的、及び目標は、養蜂技術の共有、養蜂を通してアフリカとつながること、複雑な自然から、温暖化を読み取ることです。

今後は、現地の方との交流をもっと密にするためにも、日本とアフリカとの共同事業の実施を検討中です。また、One Planet Cafeの活動に興味を持ってくれた人に対して、つながりを持続できるような体制をつくっていきたいとも考えています。これからも、その国や地域のニーズを考え、グローバルな情報、知恵、ソリューションを結び、持続可能な社会づくりを目指していきます。

メンバー

千葉めぐみ	中井麻油	川津貴大
布能友香	道家悠介	
渡辺南風	下城貴規	

価値観が変わりました。

リーダー　渡辺南風さん

～インタビュー～

1、このプロジェクトに入った理由

環境問題を解決したいと思ったときに、問題は日本だけではなく国際的なところから知るべきだと考え、国際問題を扱っているワンプラに入りました。

2、活動目標

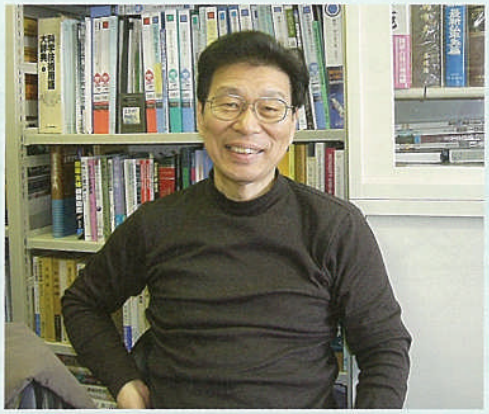
このプロジェクトはワンプラネットカフェ本部の考えに賛同して作られたチームです。ザンビアの生活から、私たちもサスティナブルな生活の可能性を見つけていこうという目標があります。

3、活動内容

日本ではアフリカの情報はほとんど入りません。なので、私たちは日本の人たちにアフリカのことを知ってもらうためにイベントに出店したり、ワークショップなどを通じて広めています。イベントではお客さんがグッズに興味をもってくれたり、小さな子供にアフリカの動物の絵を楽しんで書いてもらえたりするのがうれしいです。

4、今後の展開

養蜂の副産物である"蜜ろう"を使った活動を主にしていきます。
私たちが何かを作る技術を身につけて、ザンビアの人たちに伝えたい、何かそういった活動をしたい、と思っています。
とにかく、楽しいです。



矢内 秋生 教授

―環境オリエンテッドな社会をつくっていって欲しい―

■環境プロジェクトが大学で行われている意義について
日本社会が内向きになっているといわれ、また大学生をはじめとする若者が未来社会に希望を描けないというような状況では、それを打破するエネルギーが求められます。
環境プロジェクトという活動がそのきっかけになればと考えています。

■環境プロジェクトの良い点・課題
学生の企画には頭ごなしに「否定的なコメント」は出しませんが、無理な企画もあります。
そのときにどのように乗り越えるか、あるいは割り切って撤退するか、是非、教員にアドバイスを求めてほしいと思います。最近の学生は教員とコミュニケーションをとることが上手ではないようです。

■学生に求めること・期待すること
環境オリエンテッドな社会は、あらゆる可能性を秘めた社会で、その社会は自分たちがつくっていくという気概は欲しいと思います。

■先生にとって環プロとは
対外折衝や学内調整、学生の立替払いの"立替"など、結構しんどい側面を持っているのですが、学生諸君の成長する姿を見ることができるので、良い仕組みと思います。

■今後の環プロについて
本格的な産学連携によるテーマがプロジェクトとして恒常化すると良いと思っています。

佐々木 重邦 教授

― Win-Winの関係を ―

■学生に求めること・期待すること
環境プロジェクトを自分の成長のために積極的に利用して欲しい。自らやりたいことが出来る、PDCAの手法も学べる、外部との連携もできる、こんな授業は他にはありません。環境プロジェクトを2年間真面目に取り組んだ後に、行動力、主体性、論理的思考力、プレゼン力等、成長した自分を実感できるでしょう。そしてそれが地震となり、社会に大きく羽ばたいていけるでしょう。

■今後の環境プロジェクトプロについて
まだまだ発展途上で大きな可能性を秘めています。特に外部連携、外部情報発信など外向けの活動に期待しています。学生としての甘えを排除し、企業、NPOの方と学生が対等な立場で、Win-Winの関係を築いて欲しい。また学生が個別のプロジェクトを行うだけでなく、環境プロジェクト自体の方向性、運営、PR等マネジメントも責任をもって行い、学生の、学生による、学生のための環プロにしよう。

村松 陸雄 准教授

—ワクワクなフィーリングを—

■今後の環境プロジェクトについて

環境プロジェクトがさらなる発展をするためには、(1)「社会的インパクト」、(2)「ワクワク感」が不可欠だと思います。

(1) について、日本中、いや世界中でも前例がないような斬新性があって、その内容が高く評価される社会的インパクトがあるプロジェクトの出現を強く期待します。

(2) について、宇多田ヒカルの「虹色バス」に、「虹色バスで/虹の向こうへ/みんなを乗せて/青空PASSで/虹色バスで/どこかへ行こうぜ/大きな声で/歌を歌って……」という一節がありますが、「報告会があるから発表の準備をしなければならない」、「成果報告書を早く完成させなければ……」などといった義務に苛まれることなく、この歌のように、環プロに参加する学生自身がまずワクワクなフィーリングを感じるような環プロであって欲しいと願っています。

野田 浩二 講師

— 学生による自主的活動 —

■環境プロジェクトの良い点・課題

大学の正規科目として、学生による自主的活動が実施できていることは良いことだと思います。締切や人間関係などの多種多様な負荷を受けつつも、目的を達成できれば、皆さんにとって大きな経験となるはずです。ただその反面、低い目標で良しとしてしまえば、環プロの経験から得られるものは多くはないでしょう。

この授業でいう自主性について、もっともっと考えて欲しいと思います。

■今後の環プロについて

例年言えることですが、他のグループの活動に関心を持って欲しいと思います。

また、グループ間の連絡をもっと密にして、情報の共有を積極的に図っていけると良いですね。そのうえで、自分が生きる場所や役割は何か、他の人の良いところは何かを見つけていって欲しいと思います。

泉 貴嗣 様

武蔵野大学エコ マニファクチャリング
ビューロー研究員

■環境プロジェクトが大学で行われている意義について

環境プロジェクトは学生が主体となって学外のさまざまなセクターと連携し、「環境」にテーマを絞っていることで、意欲的な学生が「実学」としての環境を学ぶ機会が用意されているという点において、意義深い。

■環境プロジェクトの良い点・課題

環境プロジェクトの良い点は「学生が主体的にテーマを設定し、自らそれを実践し、検証できる」というプロジェクトマネジメントの手法を、「環境」という大テーマの中で学べるというところにある。また各プロジェクト間の人的交流や、合同企画など現実のビジネスにも通じる要素があり、社会人としての即戦力にもつながる。一方で、"all or nothing"的な授業スタイルから落伍した学生を、ケアする仕組みの整備が課題かもしれない。

■学生に求めること・期待すること

就職をするつもりの学生は、この授業を壮大なインターンとして捉えてほしい。自らが取り組んでいるプロジェクトに真摯に向き合い、リーダーシップと協調性という一見すると相反する能力の使い方を学び、メンバーや学外の連携相手と交わした約束を、確実に履行するなど、「社会人」として必要な「能力と誠実さ」を養ってほしい。また大学院に進学しようとする学生は、この機会を、自己の研究課題を探すつもりで取り組むべきだ。

坂倉 千文 様

武蔵野大学エコ マニファクチャリング
ビューロー研究員補助員

■環境プロジェクトが大学で行われている意義について

プロジェクト型の授業は普及しつつあります。その中でも本学の環境プロジェクトは学生の主体性がかなり強く、かつ実践に重きが置かれています。ここが素晴らしいところです。普段の授業や生活のなかで「成果」や「目標」はあまり意識されないと思います。それらを自分達で設定し、PDCAを循環させることは、実社会において共通して求められることです。座学と実学が融合した、ひとつのモデル授業であると思います。

■環境プロジェクトの良い点

可能性が無限にあるということです。環境というテーマの下、各団体との連携ができます。学生の皆さんは、学外では得られない経験や人脈をひろげることができます。

きっと、外部とのつながりを持った方は、自分達は「大学生」という枠の中で生きるのではなく、「社会の一員」だという意識が芽生えたのではないでしょうか。一方では、地域から見ると、大学というのは敷居が高く、接点を持ちにくいと思われています。商店街や施設、教育機関や企業など各所で抱える課題に対して、環プロがそのソリューションに大きく貢献できるように思います。

■学生に求めること・期待すること

自ら考え行動する、ということは高度なことです。迷走してしまうことや悩むこともあって当然、そこが成長の糧だと考えて、失敗を恐れず行動していってください。

環境学専攻　卒業生インタビュー

協力：NPO法人そらべあ基金　三澤拓矢　様

・三澤様が学生の時に環境プロジェクトで取り組んでいた内容

間伐材を利用した木のバッグ「monacca」の企画提案。私はこのグループのリーダーを務めていました。
私が最初に取り組んだことは、商品の魅力を知るため、商品展示会や販売会を手伝い、顧客の声を直に聞くことに専念することです。その後、顧客の声・学生の声を、自分たちが考えた提案内容に反映させることで、企画書を作成。実際に企業へ提案するというスキーム作りを行っていました。

・社会に出てみて環境プロジェクトでの活動がどの様に役立ったか

他人に自分を知ってもらうためのツール。自分を知らない人達に「三澤」という人間の印象を覚えてもらうために「学生時代、こんな事やっていました」と伝えるだけで、他の人より、違う印象を持っていただけます。また、仕事の基本（ビジネスマナーやパソコンスキル）を教わったことも、今の仕事に役立っています。仕事上、イラストレータやフォトショップも使用しますが、使った経験が「あり」と「なし」では大きな違いが出ると思います。

・三澤様にとって環プロとは

環境の仕事をするための準備期間であり、きっかけ。学生時代はそんな意識はなかったが、思い返すと、全部が今の自分に繋がっています。コミュニケーションの基本、仕事の基本、礼儀の基本。環プロを通して出会った人達に、これらのことを教えていただき、学ぶことばかりでした。今、環境の仕事に就いているのも、環プロでの縁が始まりであり、環プロで出会った人との関係は、現在の仕事上でも活かせるネットワークになっています。

・卒業生として在校生へ言っておきたいこと

「チームとして何を行ったか」に重点を置くより「チームの中で自分が何を行ったか」に重点を置いた考え方を持っていて欲しいと思います。
「個人プレーに走れ」とは言わないですが、社会の中では、チームの実績は自分の実績として評価してくれません。チームの中で「自分がどういう考え方で取り組んだのか、その経験で何を学んだのか」他の人と明確に違いを表わせる人を評価します。偉い人の話を聞くより、自分の糧になって、自分の経験として話すことができる活動に、邁進していって下さい。

仕事内容

NPO法人そらべあ基金の事務局。
広く数多の事務や環境NPOとしての活動スキームの企画および実践。
ファンドレイジングも一部担当している。現在は協賛企業と協業した、新しいCSR活動を実践中。

○連携先企業・団体　一覧

※順不同、敬称略

・西東京市立田無小学校	小学生への環境教育
・田無柳沢児童センター	小学生への環境教育
・株式会社日本総合研究所	チャレンジECOショップ
・みんなのブックカフェ	チャレンジECOショップ
・One Planet Café 東京	One Planet Café Musashino
・One Planet Café ザンビア	One Planet Café Musashino
・武蔵野大学	新キャンパスプロジェクト
・武蔵野大学アソシエート株式会社	新キャンパスプロジェクト
・株式会社木楽舎（ソトコト）	新キャンパスプロジェクト
・大成建設株式会社	新キャンパスプロジェクト
・三鷹市市民大学講座	世代間交流学習プロジェクト
・株式会社エクラアニマル	キャンドルナイトプロジェクト
・有限会社H&Hアソシエイツ	キャンドルナイトプロジェクト
・フォーエヌ有限会社	キャンドルナイトプロジェクト
・株式会社山武	エコキッズ/寄せ鍋/ERW21/ASSY
・ニッセイエブロ株式会社	ERW21
・東京急行電鉄株式会社	ERW21
・株式会社リコー	ERW21
・住友林業株式会社	ERW21
・株式会社荏原製作所	ERW21
・横山さんの畑	青丹菜
・株式会社コスメイト	ASSY

～謝辞～

この度は、環境学部環境学専攻の環境プロジェクトにお力添え頂き、誠にありがとうございました。今後とも、ご指導を賜りたく、どうぞお願い申し上げます。

あとがき

今回このプロジェクトに携わり、得たものがたくさんありました。
この冊子を作ったこと、またそれを読んでくださったことにより、環境プロジェクト自体がより発展していったら幸いです。

Member

佐藤　翔平	内野　翔太
坂井由里子	丹治　奈摘
岩佐　裕太	村松　　尚
道家　悠介	土方　将平
原　まなみ	平松　秀紳
広利　時雅	本間早也香
山口　真一	保倉　多恵

武蔵野大学

環境学部環境学科環境学専攻